

政策	63 観光レクリエーションの振興						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	観光客						
施策が目指す姿	地域を支える活性化策の一つとして多様なニーズを充実する総合的な観光地づくりが推進し、業種を越えた連携強化により観光地としての新たな付加価値の創造を図る。						
成果指標	観光客入込数 現状値510万人 H29年度目標値560万人						
目標達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [人/年]	予定	5,100,000.00	5,225,000.00	5,350,000.00	5,475,000.00	5,600,000.00
		実績	3,952,008.00	5,632,285.00			
	成果指標2 []	予定					
		実績					
	成果指標3 []	予定					
		実績					
	成果指標4 []	予定					
実績							
トータルコスト (千円)	予定	348,147	357,071	0	0	0	
	実績	350,478	403,835			0	
内部評価	貢献度	基本方針の目指す姿は、総合的な観光地づくりの推進や新たな付加価値の創造を図ること で実現されるため、本施策の目標である観光客入込数は重要な指標である。					
	達成状況	最大のイベントである、とちぎ秋まつりの開催や渡良瀬バルーンレースの観光客の増加、 指定管理者を導入した道の駅にしかたの利用者の増加により、目標達成となった。					
	課題	各施策における観光客誘致対策を展開し、拠点施設の魅力化と有機的なネットワークの形 成、新たな付加価値を創造する必要がある。					
	取組方針	観光基本計画に位置付けた施策を着実に実現し観光振興を総合的、継続的に進めるため、 官民協働による推進体制を構築するとともに、県外での誘客活動を強化する。					
外部評価	本施策の成果指標について、計画終了年度での達成を目指すものであるが、本市の特性と して、秋まつり開催年度には入込客数が大きく増加すると思われるので、年度別の目標値 の設定は再考の余地がある。実態に即した目標値を検討されたい。 今後は外国人観光客の増加が期待されるため、公共wifiや案内板の外国語表記など、現段 階から外国人受け入れ態勢の整備を進められたい。 「目的」と「手段」の関係を整理し、施策と無予算事業も含めた事務事業の掘り起しや洗 出しを進めること。						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	6303	新たな付加価値の創造				25,745	100
	6302	観光ネットワークの形成				88,946	98
	6301	魅力ある観光交流・レクリエーション拠点の形成				289,144	93